

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.124

< 目次 >

【記念誌編集委員会から】

- ★ 記念誌の原稿執筆のお願い..... 1

【報告】

- ★ いわき自然エネルギー研究会..... 2
★ NPO法人いわき環境研究室 3

【連載】

- ★ 新川のはじまり 水だより(4)..... 6

【記念誌編集委員会から】 記念誌の原稿執筆のお願い

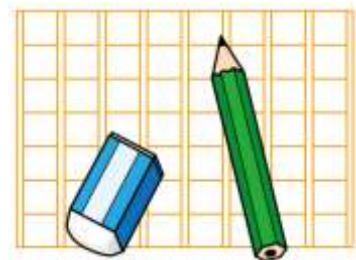
記念誌の原稿執筆については、すでに会員の皆様をお願いしているところです。その提出期限は10月31日(火)になっていることをご承知のことと思いますが、提出期限まであと2カ月を切った状態になっております。

皆様のご協力により、原稿は集まりはじめており、編集委員会の編集作業も忙しくなっております。

原稿は会員全員、1人1遍の提出を目指しております。提出期限ぎりぎりに提出されますと、編集に支障をきたすおそれがあります。

まだ原稿を提出されていない方は早目に提出を、まだ原稿の執筆にかからない方は、早急に執筆にかかるようお願いします。

記念誌の編集の進捗状況や、自分の提出した原稿の扱いなど気になる方、編集に興味のある方は、月1回開かれている事務局会議(兼、編集委員会)に顔を出して見て下さい。初めての方も大歓迎です。



今後の事務局会議の予定は次のとおりです。

10月2日(月) 18:30~20:50 福島高専専攻科棟 1F 多目的講義室

11月6日(月) 18:30~20:50 福島高専専攻科棟 1F 多目的講義室



【報告】 「いわき自然エネルギー研究会」の動き (第16報)

【1】「平窪自然塾」からの報告

○8月3日、第2回目となる平窪自然塾(第1回目は、平窪老人会対象に5/23開催)を下記の要領で開催しました。受講者は、福島高専建設環境工学科4年生44名で、平浄水場見学の後、30分程度の講座となりましたが、諏訪神社での講座を受講していただきました。

講座では、人数の関係で、2グループに分けて実施しました(①自然エネルギー設備の説明・浮体式小型水力発電装置での実演、②木製火おこし器の体験、廻り水車の実演)。

後日、教科担当の高荒智子先生から学生の感想文を送っていただいた内容からは、見学を通して、自然エネルギーをより身近なものとして感じてくれたようでした。



廻り水車を体験



浮上式水車発電機を体験



火起こしを体験

○今後の予定では、9月16日(土)に平窪公民館主催の「自然エネルギー教室」の支援事業を実施することとしています。

【2】福島県環境教育フェスティバルに出展しました

8月5日、三春の環境創造センターで開催された福島県環境教育フェスティバルに橋本、中西と平川の3人が参加しました。

いわき環境研究室のブースは自然エネルギー関連の内容としました。反力推進船や浮沈子には水を使うため、水槽に水を運ぶのに手間が掛かりましたが、10時から始まる開会式までには、余裕を持って準備できました。本フェスティバルは環境創造センター開業1周年を記念したイベントで、舩副知事の開会宣言を合図に、AKB48の福島県代表と群馬代表に来場者も加わり、たくさんのバルーンを空高く上げました。

我々のコーナーには開会早々から小学生とその保護者主体に多くのお客さんが集まり、廻り水車や風に向かう風車に興味を示していました。また、浮沈子が浮いたり、沈んだりするのを見て、何故このような現象が起こるかを聞く、子どもや保護者が多くいました。多くの小さい浮沈子組み立てセットを用意しましたが、殆どを子どもたちが自分たちで組立て持ち帰りました。

昼食をゆっくり取れないほど、盛況のうちに終了しました。夕方4時に閉会して、後片付けをしてから、充実した気分で帰路いわきへ向かいました



【3】今後の予定

◆県内自然エネルギー施設の見学会を予定しています

「福島県再生可能エネルギー見える化推進支援事業」の受託事業の一環として取り組みを計画したもので、今年度は、10月28日（土）、福島市次世代エネルギーパーク（JR福島駅、産業交流プラザ、四季の里、土湯バイナリー発電等）を見学予定です。バスの関係で、定員は20名程度です。参加を希望される方は、早めに、橋本までご連絡下さい。

（携帯：090-8788-5763、E-Mail:khashi0823@hotmail.co.jp）



◆自然エネルギー研究会を、9月23日（土）13:30～、湯の岳山荘にて開催予定です。

研究会では、前会の研究会以降の動きと今後の予定について話し合ってください。なお、当日、午前9:00～、湯の岳山荘内の自然エネルギー設備の移転作業を実施予定にしております。作業を手伝っていただける方、是非、ご参加下さい。

◇◇◇NPO法人いわき環境研究室からの報告◇◇◇

（平成29年7月1日～8月31日）

【1】平成29年度環境まちづくり担い手育成支援事業として「小中高校における水環境学習支援事業」の業務報告（第2報）

既に会報 NO. 123号では、夏井川流域内の2つの小学校（好間4小、夏井小）を対象に実施した支援事業の内容について報告させていただきました。本号では、その後の実施内容を報告します。

(1) 夏井小学校での取り組み（第2報）

7月11日（火）9:10にバスにて、源流～河口までの見学と現地調査を行いました。

◇夏井川の支川でもある「新川」の源流（内郷高野地区）を探検、少しずつ岩の間から水が滲み出る様子を観察しました。流れは、少ないながら水温の低さを肌で感じ取ったようでした。

◇バスで新川沿いを下り、新川中流部に位置する阿弥陀堂前の河原で、水生昆虫の採取に挑戦しました。子供たちにとっては、はじめての体験で、入る前に考えていたより多くの生きものが生息していることに驚いていたようでした。さらに新川を下って、アリオス前の河原で、昼食をとった後、川の水の水質分析に取り組みました。

◇最後に、夏井川河口に移動し、地元の方による投網実演やウナギの捕獲の様子を見せて頂き、カニ釣りの体験も行いました。一連の身近な川の学習を通して、水の大切さを一層感じ取ってくれたものと思いました。



(2)好間第4小学校での取り組み (第2報)

3回目となる支援講座では、水源～河口までを辿りました(7月7日)。バスで、好間川水源地の雨降山まで行き、沢沿いに歩き、流れの様子(水量など)が、少しずつ変化していくのを観察しました。途中、流れに手を入れて、水の冷たさなどの感触を楽しんだりしました。その後、好間川中流や夏井川との合流点を見て、夏井川河口まで移動。太平洋海を見ながらの昼食弁当は格別だったようでした。

夏井川河口では、地元の方の投網実演やウナギの捕獲の様子を見せて頂き、カニ釣りの体験も行いました。ウナギつかみは、最初は恐る恐るでしたが直ぐになれ、全員がウナギつかみを楽しんでいました。午後2時過ぎに帰校しました。

一連の身近な川の学習を通して、水の大切さを一層感じ取ってくれたものと思いました。なお、好間4小支援に係る支援講座では、事前・事後のアンケートをとらせていただきました。ご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。今後の講座を進める上で参考にさせて頂こうと思います。



【2】農地・水環境改善支援事業

本年度も、下記2団体からの支援要請があり、支援事業に取り組みました。

(1)小川町関場地区支援講座

7月22日(土) 地区内を流れる農業用水路及び小川江筋取り込み口近傍の夏井川本川の2箇所、水生生物調査を実施しました。児童・保護者・地区役員の方々約40人が参加。農業用水路での調査では、ドジョウが多数見られた他、ヤゴ・ドジョウ・タモロコ等が採取されました。班毎に観察・分類した後、元の水路に戻してあげました。また、今年度はじめて、夏井川本川の生き物調査にも挑戦し、カワゲラ・カゲロウ等、農業用水路には見られない生物を観察し、川の環境の違いを実感していました。

(2)草野赤沼地区支援講座

7月30日(日)、赤沼構造改善センター及び近傍の農業用水路で、生き物調査・水質分析等を実施しました。本講座は、「水との共生」出前講座(福島県土地水調整課)の一つとして取り組まれたものです。講座には、地区の児童・保護者・役員を含め約50数名と例年より多くの方が参加されました。当NPOからは、5名(平川、江尻、和田隆、和田佳代子、橋本)が支援にあたりました。地区の人達も、普段、農業用水路に入る機会はほとんど無いようで、ハゼ等の稚魚やアメリカザリガニ等を夢中で追いかける姿が印象的でした。構造センターに戻ってから近くの水路や赤沼川・三夜川等の河川水の水質分析に取り組みました。

講座後のアンケートには、子供たちにとって夏休みの良き思い出になったとの感想を戴きました。



農業用水路にて生き物調査（赤沼）



水質調査後のまとめ（赤沼）

【3】夏休み理科自由研究支援講座

平成 29 年 7 月 23 日、従来はフラワーセンターで実施していた「夏休み自由研究支援講座」を常磐関船にあるパルシステムみんなの交流館で開催しました。

事前申し込みがあった小学生 11 名の受講者（保護者を含めると 22 名）が全員参加しました。

10 時に開始し、橋本理事長の挨拶と講師 5 名の自己紹介のあと、「空気の力は面白い」のパワーポイントによる授業から始まりました。授業の後は 3 班に分かれ、

- (1) ストローで水をどの高さまで吸えるかの実験、
- (2) 吸引盤フックで持ち上がる重さの限界、
- (3) ビニール袋で作った空気エレベーターに乗って人体が浮き上がる 3 つの体験をしました。

体験コーナー後は、パイプで作った空気鉄砲での的宛て競争や、風船を膨らませて天井まで高く上る空気ロケットアトラクションを行いました。その後、体験コーナーで行ったことについて、何故そのようなことが起こるかについての説明を行いました。

2 時間の支援講座でしたが、受講した子供たちの満足そうな笑顔が印象的でした。



【連載】 新川のはじまり 水だより (4)

いわき科学の里 主宰 諸橋健一 (会員)

いよいよ、水だよりは4回目になります。今日のテーマは「川の水の水温」です。

いわき地域の源流域の河川水温は、「北高、南低」の傾向がみられます。

川の水温は、夏が高く、冬が低く、また、下流に行くに従い高くなっていきます。しかし、おなじ時期に調査した源流域の水温のデータをみると、おもしろいことがみえてきます。平成5年9月の調査結果です。

17℃前後が大久川と夏井川。夏井川系水で水温が低いところが三坂川、門八川、鹿又川で15℃台。14℃台が好間川。鮫川水系の井出川と戸草川が11℃台。最も低かったのは四時川で10℃以下の9.7℃。新川は16℃です。

これはどうも、源流域の降水量等の気象、地形、地質、植生などと深く係わりがありそうです。今後の研究課題としていきたいと考えています。

参考までに、昭和45年からこれまでに観測された、河川水温の最高値は昭和50年8月の藤原川の51.0℃でした。新川の最高は、昭和45年7月の31.5℃です。



降水量観測値	(平成29年)
6月1日～30日	162.0mm
7月1日～31日	155.0mm
観測場所	内郷高野町先達
観測者	諸橋健一

※この記事及び観測値の利活用は本会会員に限ります。



鹿又川下流の風景

2017. 9.1.	No.124
発行：いわき地域環境科学会 福島工業高等専門学校 地域環境テクノセンター内 〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾30 TEL. 0246 (46) 0837 FAX. 0246 (46) 0843 E-mail : mail@essid.org	